

京都市民の健康に対する意識調査

— 疫学情報部門 —

高齢社会が進むにつれ、人々の健康に対する意識も高まっています。それを示す一つの指標として、厚生労働省で行っている『国民生活基礎調査』があります。この調査は国民の保健、医療、福祉など国民生活の基礎的なことを調べるもので、国民の生活をより良いものにするための資料として活用されています。当部門では、国からこの調査の京都市分のデータを入手し、詳しく調べています。今回は京都市民の健康に対する意識調査について紹介していきましょう。

調査対象は国勢調査から偏りがないように選んでいます。京都市分は2,378世帯、6,120人となっています。

1. 自覚症状等の状況

病気やけがなどで体の具合の悪いところ（自覚症状）を持っている人の割合（図1）については、全体の3割程度となっています。

また年齢別で見ると、自覚症状を持っている人は「5～14歳」が人口千人あたり154人で最も低く、年齢が増すとともに増加しています。

図1 性・年齢別にみた自覚症状を持っている人の割合（全体を千人とした時）

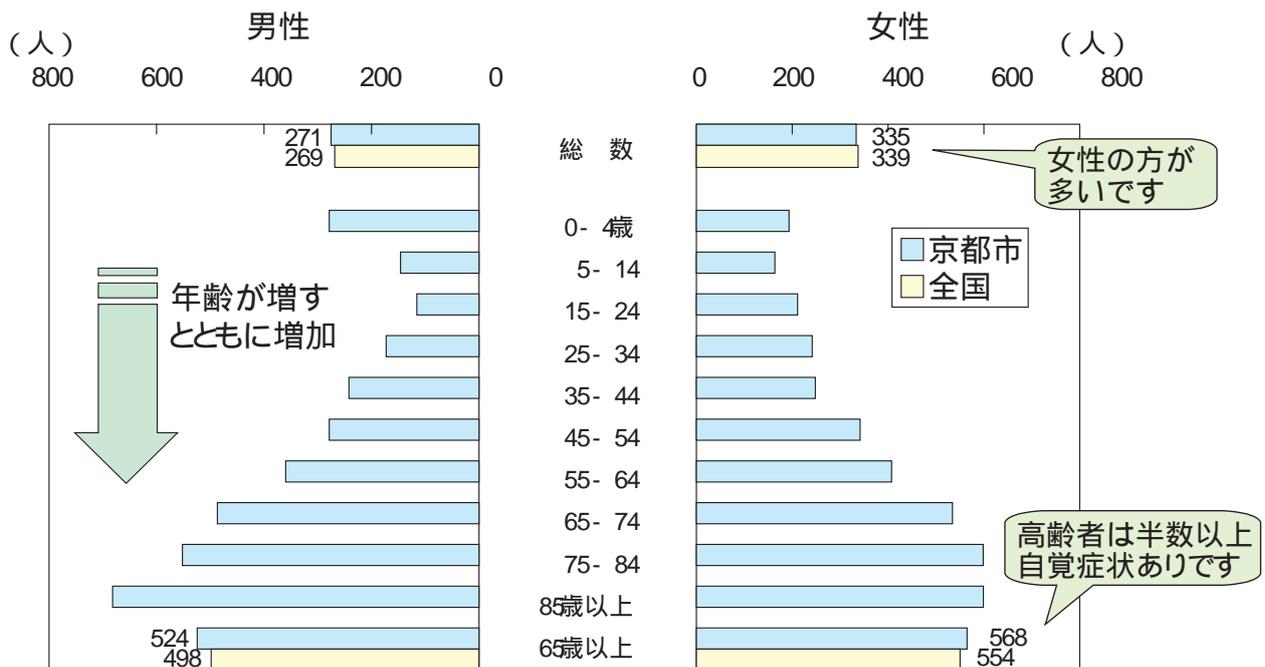
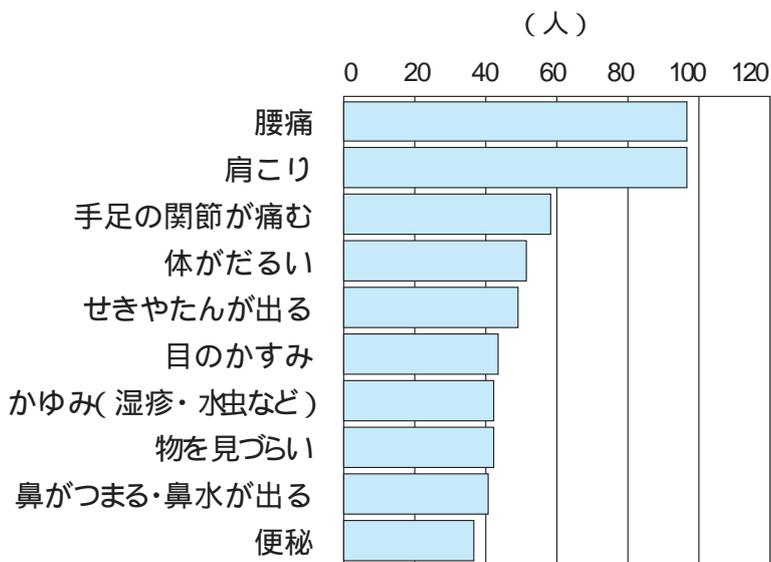


図2 自覚症状の上位10項目
(複数回答, 全体を千人とした時)



また, 自覚症状(図2)については「腰痛」, 「肩こり」, 「手足の関節が痛む」の順になっており, 特に男性では「腰痛」が, 女性では「肩こり」が最も多くなっています。

また, 上位を占める「腰痛」, 「肩こり」などの症状は高齢者に多くなっています。「せきやたんが出る」, 「鼻がつまる・鼻水が出る」などは低年齢層に多くなっています。

そして, 最も気になる症状について何らかの治療をしている

かという質問では, 「治療している」人は7割程度で, 治療している割合の高い症状は, 「熱がある」, 「胃のもたれ・むねやけ」, 「ゼイゼイする」逆に, 低い症状は「いらいらしやすい」, 「かみにくい」, 「頻尿」となっています。

2. 通院者の状況

通院者とは病院, 診療所, あんま・はり・きゅう・柔道整復師などで病気やけが等の通院治療をしている人のことです。(ただし, 入院者は除きます。)

通院者数も「自覚症状を持っている人」と同様に全体の3割程度となっています。

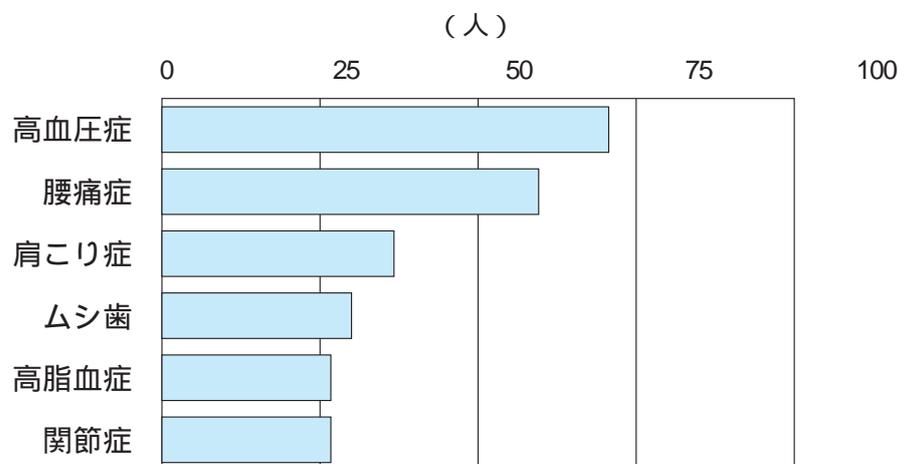
性別では人口千人あたり男性264人, 女性306人で女性の方が多くなっています。

年齢別で見ると「15~24歳」が最も低くやはり年齢が増すとともに増加しています。

また, 病気やけが別の通院者数(図3)については「高血圧症」, 「腰痛症」, 「肩こり症」, 「ムシ歯」の順となっています。

最も多い「高血圧症」は男女ともに一番多くなっています。

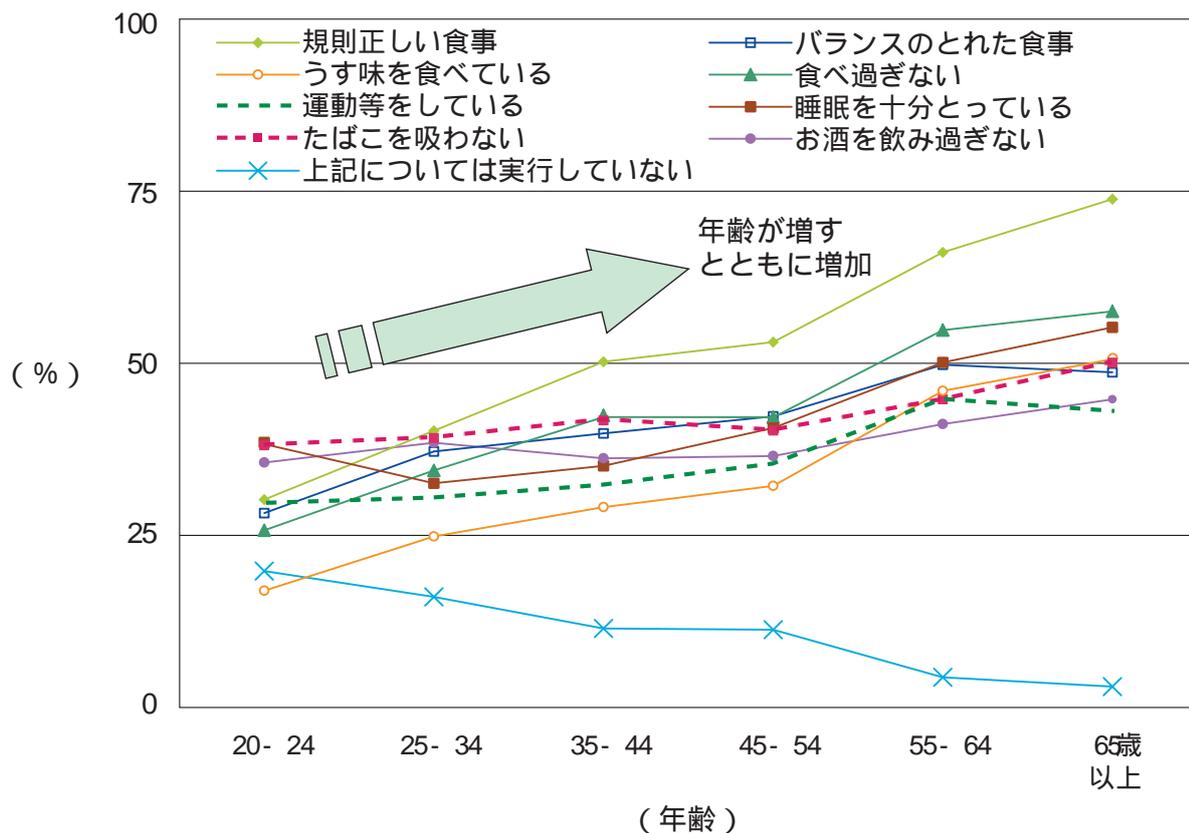
図3 病気やけが別の通院者数の上位6項目
(複数回答, 全体を千人とした時)



3. 健康意識について

日頃健康のために実行している事柄（図4）も年齢が増すとともに多くなっているようです。特に「規則正しい食事」を心がけている人は最も多く、65歳以上では74%もの人が実行していると回答しています。また、65歳以上の高齢者ではどの項目についても40%以上の人が実行しており、日頃から健康のため努力していることがうかがわれます。

図4 日頃健康のために実行している事柄（複数回答）



4. 最後に...

年齢が増すとともに自覚症状を持っている人や通院者数は増加しています。それに伴い、健康に対する意識も高まり、高齢者になるにしたがって多くの人々が健康のために気を配っていることがわかります。

まだ上記の事柄を実行していない人も、食事や睡眠など生活習慣を少しずつでも改善してはいかがでしょうか？

（参考資料）平成10年国民生活基礎調査 京都市の概況 京都市衛生公害研究所